

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年10月22日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690300159
法人名	株式会社ケイシン
事業所名	グループホームことぶき太陽の家
所在地	鹿児島県鹿屋市笠之原町3番44号 (電話) 09994-40-96
自己評価作成日	令和3年9月29日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和3年10月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の周りが緑の木々に囲まれた静かな住宅街で季節を感じながら過ごせる環境があり、木々の間からは、鳥のさえずりなど感じながら地域の方々と散歩が一緒になったり挨拶をかわしての交流を深めています。

日々の生活の中で、利用者一人ひとりの生活歴や残存機能を生かし、施設内だけではなく、屋外までの広い視野で行うように心がけ、毎月の行事は季節に添った計画や地域のイベントの参加などに取り組んでいます。

当事業所の経営者は幼児教育・障がい者支援・高齢者福祉に力を注いでおり、保育園児・学童との交流行事をはじめ、障がい者支援部門との関りを持ちながら、ご利用者様の生きがいつくり・自立支援の面に取り組んでいます。

また地域との関りは、新型コロナが終息したら積極的に町内会行事等へ積極的に参加し協力・連携体制に図り取り組んでいます。

職員には、理念に掲げている「入居者様の立場に立った介護」を目標に日々のケアに努めています。利用者様が生活の中で出来る事をして頂き、生きがいを持って生き生きと暮らして頂ける様に、パーソンセンタード・ケアをコンセプトに認知症介護の実践に取り組み支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの方針として、利用者のさりげない日常生活を大切にしたいと努めている。毎日の食事でも、良い物をおいしく食べて頂きたいと、同法人が運営する障がい者施設で生産した米や野菜を食材に使用している。対面キッチンのため、調理の音やにおいを感じることができ、利用者もお盆拭きや台拭き、おしぼりたたみ等の食卓の準備に参加し、職員と同じメニューの食事を会話を楽しみながら一緒に食べている。以前は菜園で野菜を作っていたが、現在はキンカンやビワ、パッションフルーツ等の果樹が多く、利用者と季節の果物の収穫を楽しんでいる。

身体拘束廃止委員会による研修を年4回実施し、高齢者の権利擁護や身体拘束に関する話し合いを行い職員の理解を深めている。転倒等、事故防止の観点から安全を優先するあまり、職員が「ちょっと待って」と言ってしまうことがあるが、この言葉自体が行動制限につながることは職員は理解しているため、委員会や職員会議で繰り返し話し合い、確認することで言葉の持つ意味や行動を制限しない言葉を選択し声掛けにつなげられるよう日々努めている。

本人の思いや暮らし方の希望等を本人の言葉や家族からの情報を基に聞き取り把握すると共に、入院中である場合は入院先の病院を訪問し、利用者や看護師、医療ソーシャルワーカー等から情報を収集し、職員間での情報共有につなげている。入居後も日々の生活の中で見せる表情や仕草等から思いを汲み取るよう努め、利用者の状況や変化をその都度「連絡簿」に自由に記録しケアプラン作成につなげている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念の内容に地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念を見やすい位置に掲げ管理者と職員は理念にもとずいた介護ができるように務めている。	玄関と事務所の目に付きやすい場所に理念を掲示し意識付けを図ると共に、理念である「入居者様の立場に立った介護」が実践できているかを職員会議等で振り返り確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染防止の為交流ができていない。。新型コロナが終息したら地域との交流・行事に参加していきたい。	日常的に散歩に出かけたり、回覧板を回す際に地域住民と挨拶や会話をしている。コロナ禍以前は地域行事や保育園、学校行事に積極的に参加していたが、コロナ禍の現在は実施できない状態が続いている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	新型コロナ感染棒の為、面会を制限しているので見学はできないが、電話での質問、相談があるときは対応させて頂いている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議は新型コロナ感染防止の為文章や電話でアドバイス頂き出された意見はサービス向上に活かしている。	コロナ禍のため、会議は職員間でのみ実施しており、家族や行政職員等は参加できていない。行政には会議録を持参し、家族等参加予定者には送付することで報告としている。自治会長とは日常的に連携しているため、事業所への理解が得られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナ感染防止の為運営推進会議が階差できず、市役所出向し市の担当者と密に連絡を取り相談助言を頂いている。	行政職員とは介護関係書類を提出する際や運営推進会議の議事録を提出する際に面談し、相談事や事業所の取り組みについて報告している。また、オンラインによる集団指導や研修会でも意見交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会をミーティングで職員と共身体拘束について正しく理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	3か月毎に「身体拘束廃止委員会」による内部研修を行い、スピーチロックについてや施錠しない自由な生活の支援等についてを話し合っている。特に行動を制限させてしまうような声掛けは不適切であることを十分に理解した上で言葉選びに気を配りながら日々支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても勉強会を開き身体虐待のみならず心理的虐待ネグレクト等の知識を高め職員の意識を図り虐待防止に務めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度についてミーティング等で勉強会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容を必ず家族に分かりやすく説明し家族が納得の上入所していただいている。改定時にもその都度説明し同意をえている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員、管理者共に意見や要望が言える関係づくりを行っている。玄関に意見箱を設置し利用者や家族が意見や要望を出しやすいようにしている。	利用者の意見や思いは会話や表情等、様子を見ながら汲み取り、家族からは電話や面会時の会話等から意見をもらっている。また、家族に毎月写真入りの便りを送付することで感想や意見をもらい運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング時に職員の意見や要望等を話し合う機会を設けている。また、日常的なコミュニケーションも大切にし、なんでも話してもらえる関係づくりをしている。	職員からは毎月の職員会議で自由に意見を述べてもらい汲み取るほか、休憩中の雑談も大切なコミュニケーションの場となっている。また、年2回人事考課を兼ねた個別面談も実施しており、管理者は個別の相談にも耳を傾けている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人役員と法人内の管理者会議を月1回開催している。代表者も職場や職員の状況を把握し職場環境や条件設備を行っている介護イガの業務が行えるよう勤務調整も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム協議会の研修に参加している。研修後は、ミーティングで研修会で報告し職員と内容の共有している。資格習得に奨励勤務体制を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>新型コロナで交流ができず新型コロナな終息したらまた、地域のグループホーム間で定期的に交流ができ介護質の向上を図りたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの必要な情報に耳を傾け利用者が不安なく安全に安心した生活ができるよう努力し職員との信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談や要望切実に不安が解消されるように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が必要としているとされている支援を共に考えサービスを利用していただくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に洗濯物星、洗濯ものたたみ、食事の時利用するお盆吹き、テーブル拭き、行事のおやつ作り等を利用者、職員ともにやっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナで家族と面会ができないためでんわで話をしていたり、毎月たよりに写真を載せ元気な様子を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みお人との面会が新型コロナで外部との面会ができない状況です。思い出の写真や小物など居室に置き、思い出を大切に途切れないように一人ひとりの必要に応じて支援している。	コロナ禍のため、なかなか馴染みの関係継続は難しいが、家族や友人への電話や手紙の取り次ぎ、年4回の訪問カットの継続等、可能な範囲での交流を続けている。コロナ収束後は交流を再開させたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの個性や今まで生きて来られた経緯を重んじながら、集団生活が利用者同士より良い関係が築けるように入居者様のそれぞれの個性や生活歴を生かしながら支援させて頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても本人や家族との関係性を大切にして必要時には情報提供や相談支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中の対話や表情から本人の思いを察する様に努めており、さらに家族からの情報を得て意向の把握を行い一人一人について検討している。	本人の言葉や家族からの情報から思いを汲み取ると共に、入院先の職員からも意見を収集し把握している。入居後は職員が自由に記載できる連絡簿を活用し、申し送り時等に情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人家族からの情報を伺っている。入居者様のサービスの経過等は担当ケアマネサービス提供者からの情報を頂き把握出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録での状況の把握担当者会議・ミーティング等での情報交換で現状を把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の生活に対する意向を尊重して総合的な援助方針を現状に即したチームで達成できる様に作成し評価が具体的にわかりやすい介護計画の作成に努めている。	本人や家族の意向を基にカンファレンスやモニタリング記録、情報共有ノートである連絡簿を参考にして介護計画を作成している。主治医の訪問診療日時に合わせて家族にも来所してもらい担当者会議を行うなど、関係者全員による確認の下で介護計画を共有し交付している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったサービスの実施を行い、状況と結果を介護ソフトに個別記録として実施している。職員間での情報の共有の為に毎日の朝礼時や月1回のミーティング会議の際に話し合いを行い確認を行っている。必要時に介護計画等の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の別のグループホームやディサービス等の活用の情報収集に取り組んでおり発生するニーズに対応していける様に努力している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ感染防止で現在交流が行われていないが、新型コロナが終息法人内の幼児施設・学童施設等の交流を行っていきたいと思っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診に関しては、入居前からの本人家族の状況のわかる医療機関を継続しており、外来受診の難しい状況の際には訪問診療棟への移行を家族に説明し検討している。	利用者の重度化や家族の高齢化に伴い病院受診が難しくなっているため、現在は利用者全員が協力医療機関による訪問診療を受けている。月2回の訪問診療により、本人や家族の安心につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との医療連携体制を業務委託として専門職の支援をしている。看護師による利用者の健康管理や状態変化など伝え相談してそれに応じた支援を行っている。受診の様子、観察、緊急時の対応の支援も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医やソーシャルワーカー家族等連絡を取り、回復状況等の情報交換や提供を行い利用者様の状態確認を行っている。又、退院支援についても情報提供等を行い訪問看護との医療業務提携に対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重症化した場合や終末期の在り方についても説明を行っている。利用者の状態なども家族に連絡をして話し合いも行っている。職員間での対応方針を共有し支援している。看護師を中心に応急手当や初期対応の訓練も実施している。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」や「終末期の在り方について」の説明と同意署名をもらうと共に、終末期には改めて説明し同意を得ている。看取り期に入ると介護計画とは別に「看取り介護計画」を作成し、関係者全員で方針を共有し支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時に備えて職員は講習会等に参加している。救急の呼び方や状況提供書を用意しており、不測等の事態にも対応出来る様に訪問看護と医療業務連携体制を整えての支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の総合訓練、避難訓練を実施し、毎月通報訓練・避難経路の確認、避難誘導方法、消火器の使用方法、通報訓練等を実施した。地震想定での訓練も実施。今後は水害想定での訓練を行う予定。地域との協力体制では通じ町内会長、地区の消防団長とも話し合いをして協力体制を取っている。</p>	<p>夜間想定を主とした火災訓練を年2回実施したほか、新人教育研修を兼ね、通報訓練や避難経路の確認を繰り返し実施した。備蓄は飲料水や米、カップ麺等を約3日分準備し、カセットコンロや懐中電灯等の備品も準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を踏まえて特に入浴、排泄には十分に注意を図り配慮し、その方にあった言葉使いや言葉かけをして介助を行う様に留意している。	毎月の職員会議で言葉遣いや礼儀、認知症の方への接し方について話し合っている。食事後に「食べていない」と言われた際は話を傾聴し、おやつやお茶を一緒に楽しむ等、受容しながら信頼関係を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望や自分で決める意思を大事にして入浴時の着替える服などを選んでもらう等の働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペース及び体調、気分等に考慮し食事、日課等に柔軟に対応して職員の都合を優先する事なく、利用者様に合わせたの支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者様の生活習慣で自己表現が出来る様に支援している。訪問美容も2カ月に1回は訪問してもらい、本人様の希望に添えるような髪型にカットして頂いている。更衣も本人様に洋服を選んでもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様で野菜の皮むき、皿等の洗いが出来る方は出来る範囲で職員と共同で行っている。又、郷土の料理、お菓子作り等を利用者様から教えて頂きながら一緒に作り食を楽しんで頂いている。食事、お菓子等も利用者様が食べやすい様に工夫をして提供している。	同法人が運営する障がい者施設で生産している米や野菜を食材に用い、利用者の食べたいものを献立に取り入れたり、おせち料理やソーメン流し、運動会弁当等、季節の食事を工夫して提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取、食事摂取量に気を付け栄養不測等にならない様にケース記録等に記録を残し、食事、水分摂取が少ない利用者様に対しては訪問診療時、受診時に相談して支援している。一人ひとりの特性、好みを理解し、身体機能に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり口腔ケアを実施している。口腔内の訴え時は歯科医に情報提供を行い、歯科医による往診、歯科衛生士による専門職の方から指導、助言を頂き支援している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の尊厳を大切にしながらトイレでの排泄を考えている。オムツ、パット交換の際も本人の羞恥心を考え支援している。排泄状況の把握に努め時間をみてのトイレ誘導、介助の対応を行っている。必要時は福祉用具等の検討を行い対応している。	可能な限りトイレで排泄できるよう排泄チェック表を参考にトイレ誘導を行っている。入居当初はおむつを使用していた方もアセスメントによりトイレで排泄できることを確認し、おむつを外した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に食材やメニュー等の工夫をしている。ラジオ体操、機能訓練を実施して体を動かしてもらっている。水分なども十分に摂取してもらう様に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日により入浴日を決めている。利用者様の体調にも考慮している。個々に応じた入浴の支援をしている。	週3回入浴日を設けているが汚染時や散髪日にも入浴やシャワー浴を提供している。また、入浴を楽しめるよう、ゆず湯や入浴剤を使うことがあり、脱水予防のため入浴前後の水分補給にも気を配っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日1回はベッドにて安眠をする時間をつくり支援している。一人ひとりの生活習慣にあった対応をしてもらい、休息の時間の提供、安心して気持ちよく休める様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬が無い様にきちんと飲み込みまで終えるまで見守り、確認をする。処方の変更時はノート、申し送り表に記載し送り時に再確認をする様にしている。主治医よりの処方内容を看護師、薬剤師、職員確認し連携を図る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりのライフステージを尊重し、本人の意向に合わせて共同生活の中での役割、目標作りに心がけ取り組んでいる。残存機能の低下にならない様に無理強いをしない様に機能訓練等を取り入れメリハリを持って生活出来る様に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間の事業計画、行事計画を作成して季節ごとの夏祭り、敬老会、クリスマス等の行事をして支援している。利用者様の体調に配慮しながら、また入居者様、家族の要望などを伺いながら楽しみを持って頂ける様に支援している。地域行事等には可能な限り参加している。	高齢化や重度化に伴い外出が難しくなりつつあるが、屋内ばかりでは刺激が少ないため、初詣や花見、ドライブ等、感染症対策を取りながら人混みを避けた場所に出かけ気分転換を図っている。コロナ収束後は地域行事や外食に出かけるなど、日常的な外出支援を再開させたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の管理能力に差がある為、家族と相談し了承、同意の上に事務所に管理している。一人ひとりお小遣いがあり必要時、本人の好きなお菓子、飲み物、衣類、福祉用具等を購入している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話が出来ない利用者様については、職員が家族と今の状況を説明したり、便り等で日常生活の様子に分かって頂ける様にしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有スペースには利用者様が見やすい様にテレビの設置、くつろげる様にソファの設置もしている。又、外が見える様に大きな窓があり季節を感じて頂ける様している。窓の外にはベランダもあり、天気がいい時などは外でのお茶を楽しんで頂いている。</p>	<p>フロアは広く午前中は窓を開放するなど換気に努めている。コロナ禍以前は保育園児を招き、一緒に季節の作品を作っていたが、現在は職員と作りフロアに掲示し温かみのある共有空間となっている。また浴室は広く中央に浴槽を配置しているため、身体状況に応じて利用しやすい設備である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアも利用者様が居心地がいい様に工夫し、多数の方が座られてもふれあい出来る様に大きなソファ等がありテレビなど見やすく設置してある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具、服、コップなど本人のライフステージの中での馴染んだものをご家族より協力、準備して頂ける様に取り組んでいる。居室には他にも思い出の品、家族の写真をおいて安心して生活し過ごして頂ける様にしている。	エアコンや電動ベッド、タンスや洗面台が備え付けられるほか、自宅から馴染みの品を持ち込み居心地に配慮している。朝夕の換気のほか、1日3回消毒を行う等、感染症対策にも気を配っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーであり、壁側の手すりも設置安全に歩行ができる様にしている。車椅子、歩行器も安全に動ける様にしている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない